



「くまもとの夢」の実現へ向けた着実な 一歩を

熊本県知事 蒲島 郁夫

熊本県には、優れた人材や古来より受け継がれてきた歴史・文化をはじめ、阿蘇や天草など世界に誇れる自然や景観、大地と海の恵みであり宝である農林水産物、さらには、高い技術に裏付けられた工業製品など多彩な豊かさがあります。

また、平成二十三年三月には九州新幹線が全線開業します。ダイナミックな人の流れを生み出すこのチャンスを生かし、熊本の持つ豊かさや強みを再認識するとともに、熊本市の政令指定都市実現を支援することによって、熊本の可能性を最大限に引き出していかねばなりません。

わたしは、この可能性を「くまもとの夢」の実現につなげるため、昨年十二月、県政運営の基本方針となる「くまもとの夢4カ年戦略」を策定しました。現在、その着実な推進を図るとともに、厳しい経済情勢を踏まえた景気・雇用対策に取り組んでいます。

■喫緊の課題への対応

本県には、危機的財政の再建、川辺川ダム問題、水俣病問題という乗り越えるべき三つの大きな課題があり、その解決に向けた挑戦は、今も続いています。

危機的状況にある県財政の再建については、本年二月に「財政再建戦略」を策定し、歳入・歳出両面にわたる抜本的な見直しを行っています。

川辺川ダム問題については、昨年九月に計画の「白紙撤回」を表明し、国、県及び流域市町村の参加の下で、ダムによらない治水対策を極限まで追究しています。

また、水俣病問題についても、与野党協議が進められており、県としても早期解決に向けて取り組んでまいります。

これらの課題を乗り越え、「くまもとの夢4カ年戦略」に掲げる四つの分野で夢を

実現し、県民総幸福量の最大化を図ってきたいと考えています。

■平成二十一年度予算について

今年度は、実質十三ヵ月予算として当初予算とあわせて緊急経済対策への積極的な対応を行うとともに、「くまもとの夢4カ年戦略」と「財政再建戦略」を着実に推進していくための予算としました。

以下に、今年度の主な取組みを紹介します。

一 経済上昇くまもと（経済）

安全安心な県産農林水産物を大消費地へ積極的にPRしたり、県独自の認証制度を充実させます。

また、企業参入を含めた多様な新規就農を想定し、窓口や就業環境を整備します。

さらに、地域経済の浮揚につながるよう、新たなインキュベーション施設の設置・運営や中小企業への融資枠の拡大などを行います。

加えて、「ようこそくまもと観光立県条例」に基づき、県民総参加で魅力ある観光地づくりに取り組めます。

二 長寿安心くまもと（暮らし）

認知症対策として、総合的な診療体制や相談体制を整備するとともに、特別養護老人ホームなどの施設整備や居宅介護サービスの充実により施設入所待機者の解消を図ります。

また、糖尿病の総合的な予防対策などの生活習慣病対策や男女共同参画社会づくりに向けた県民による実践活動への支援を行います。

三 品格あるくまもと（誇り）

鞠智城の国営公園化や阿蘇・天草などの世界文化遺産登録の実現を目指すとともに、J1入りを目指しているロアッソ熊

本を、県民運動推進本部を通じ支援します。

また、全線開業が二年後に迫った九州新幹線の駅周辺の道路網などの基盤整備を進めるとともに、美しい景観の形成に取り組めます。

四人が輝くくまもと

教育が子どもたちの「夢への架け橋」となるよう、退職教員などのノウハウを活用し、児童生徒の学力向上に取り組まします。

また、経済的な理由で大学などへの進学を断念することのないよう、奨学金制度を拡充するとともに、生活保護世帯を対象とした無利子の生活資金貸付制度を創設します。

さらに、第三子以降の三歳未満児の保育料の無料化についても引き続き実施します。

加えて、基金を活用して就業機会の確保や安定的な雇用の創出に取り組むとともに、ジョブカフェ・サテライト員を配置し、若年者の就職を支援します。

■最後に

人口減少・少子高齢社会の中で、未曾有の経済危機に直面し、日本全体が今後の歩むべき道を模索しています。本県も、財政再建をはじめとして、地域経済の再生など多くの課題を抱え、まさに「逆境」にあります。

わたしは、「逆境にこそ夢がある」の信念の下、今、県として何ができるのか、そして何をなすべきなのかを県民の皆様とともに考え、知事として強いリーダーシップを発揮していきたいと考えています。

誰もが「ずっと住み続けたい」と思える熊本の実現に向けて、これからもまい進してまいります。